

日本NGO連携無償資金協力

プレイヴェン州ピアレン医療圏結核診断体制強化プロジェクト医療機器贈呈式典開催

6月11日（水）、平成25年度日本NGO連携無償資金協力案件「プレイヴェン州ピアレン医療圏結核診断体制強化プロジェクト」（供与限度額：272,222米ドル）により購入された医療機器贈呈式が、ピアレンリファラル病院で開催されました。右式典には、日本国大使館からは與那嶺守能二等書記官が出席して祝辞を述べ、国立結核センター長マオ・タン・イング氏、プレイヴェン州副保健局長ウン・チャン・トゥーン氏、ピアレン郡知事ヒートウック氏、ピアレン保健行政区長フート・コーリヤン氏、ピアレンリファラル病院関係者、結核予防会関係者、地域住民、約100名が参列しました。

本プロジェクトは、2014年3月に贈与契約が結ばれ、同年5月にデジタルX線装置一式と蛍光顕微鏡が搬入され、この度の贈呈式典の運びとなりました。

式典で與那嶺書記官は、「本日の医療機器贈呈式に出席でき大変光栄です。日本政府は、医療施設の整備や人材育成を通じて、カンボジアの保健医療分野に積極的に支援しています。本日、贈呈される医療機器を有効に活用することにより、結核感染率減少に貢献することを期待します。」と述べました。その後、国立結核センター長マオ・タン・イング氏は、「国の発展には欠かせない医療分野の支援を続ける日本政府と日本国民のみなさんに大変感謝しています。今回、贈呈された医療機器が、末永く、大切に使用されるようお願いしています。」と述べました。その後、目録が贈呈され、贈呈されたX線装置及び蛍光顕微鏡を見学し、式典は無事終了しました。



與那嶺書記官によるスピーチ



国立結核センター長のスピーチ



目録の贈呈



式典会場の様子



贈呈された蛍光顕微鏡（右）
（左は従来の光学顕微鏡）



贈呈されたX線装置一式